

ふうしん

風疹(三日ばしか)について

1) どんな病気？

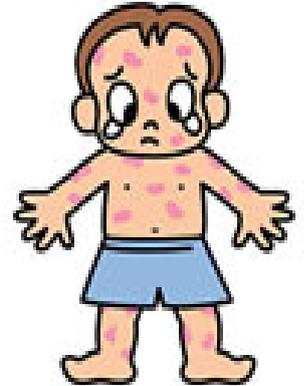
風疹とは、風疹ウイルスでおこる発疹のる感染症です。

唾液や咳などからうつります。

感染してから2~3週間で発病、3日~1週間ぐらいで治りますが、妊娠5ヶ月までの人にうつると先天異常や流早産につながるので、治るまでは自宅で静かに過ごしましょう。

風疹ウイルスはTogavirus科Rubivirus属に属するウイルスで、上気道粘膜より排泄されるウイルスが飛沫を介して伝播されます(飛沫感染)。

その感染力は麻疹、水痘よりは強くありません。



2) 症状

感染から14~21日(平均16~18日)の潜伏期間の後、発熱・かぜ症状(咳・鼻汁・咽頭痛)とともに、赤い小さな斑点状の発疹が、顔、耳のうしろあたりから出はじめ、24時間以内に全身に広がっていきます。

(発疹はかゆみをともしることが多い)

多くの場合、発疹は紅く、小さく、皮膚面よりやや隆起して全身に出現します。

同時に、後頭部、耳のうしろ、首のリンパ腺もグリグリ腫れてくるのが特徴です。

そのほかに、目の充血、だるさなどもみられます。ふつう、発熱は2~3日で下がります。



写真1. 風疹による発疹-顔面および体幹全体に見られる

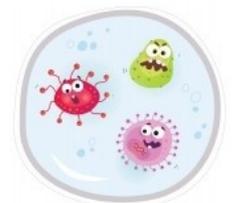


写真2. 耳介後部リンパ節の腫脹が見られる

リンパ節は発疹の出現する数日前より腫れはじめ、3~6週間位持続します(写真2)。ウイルスの排泄期間は発疹出現の前後約1週間とされていますが、解熱すると排泄されるウイルス量は激減し、急速に感染力は消失します。

3) 起こりうる合併症

基本的には予後は良好な疾患です。3,000人~6,000人に1人の割合で、関節炎・脳炎・血小板減少性紫斑病・急性脳炎などが起こることがありますがこれらの予後もほとんど良好です。脳炎の症状として、頭痛、嘔吐、意識障害、けいれんを起こすことがあります



4) おうちでのケア

ウイルスによる病気なので症状にあわせた治療になります。合併症に気をつけて自宅で静かに過ごしましょう。



- ①食事：特に制限はありません。
- ②入浴：解熱して体調が良ければ可能です。

6) 出席停止期間

医師が診断してから、発疹が消失するまでは出席停止になります。

7) 予防

予防接種で予防できます。

現在東京都では定期予防接種として「麻疹・風疹混合ワクチン」を1歳時と小学校入学前の1年(年長時)に接種するようになっています。忘れずに接種して予防しましょう。



小豆沢病院 小児科外来
2013年5月作成